



弘前大学

*このイラストは「大学でデータサイエンスを学ぶ理由」をAIに考えさせたものです

数理・データサイエンス教育プログラム

情報技術とデータサイエンスによる社会変革への対応 情報技術の急速な進化とグローバル化が進む現代において、社会が求める人材像は大きく変化しています。情報技術への適応力とデータサイエンスを活用した課題解決能力を持つ人材が、これからの時代をリードするキーパーソンとなります。本学では、このようなニーズに応えるために、データサイエンス教育の二つのプログラムを提供しています。

リテラシープログラム データサイエンスの基本的な知識とスキルを修得し、活用能力を養います。

応用基礎プログラム 専門分野においてAIと高度なデータ分析技術を応用するスキルを獲得します。

未来をデータサイエンスで切り拓きたいあなたへ これらのプログラムは文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)に認定されており、データサイエンスの知識とスキルを効果的に習得するための最適な環境を提供します。さらに学びを深めたい学生のために、高度な知識と技術を身につけることができる**副専攻プログラム**も用意しています。

「データサイエンス基礎」の初回は必ずパソコンを持参し、それまでに多要素認証*もすませておくこと。分からないときは初回にスマホも持参！

*多要素認証とは、パスワード入力に加えて、本人しかできない追加の認証を行うことで、本人以外のなりすましを防止する方法です。情報システム利用ガイダンスで説明があります。

弘前大学 数理・データサイエンス教育プログラム

弘前大学では、教養教育科目・データサイエンス科目群をベースとしてデータサイエンスの二つのプログラムと一つの副専攻プログラムを用意しています。

プログラム名	構成科目名
リテラシープログラム	データサイエンス基礎・地域学ゼミナール
応用基礎プログラム	データサイエンス基礎・地域学ゼミナール データサイエンス応用 A または データサイエンス応用 B
副専攻プログラム 「データサイエンスコース」	データサイエンス基礎・地域学ゼミナール データサイエンス応用 A または データサイエンス応用 B データサイエンス実践

教養教育科目 (必修)

修得可能な知識・スキル

- A. データに対する基本的な理解
- B. パソコンによる基本的なデータ処理スキル(エクセル)
- C. 課題をデータサイエンスで解決する力

教養教育科目 (選択)

修得可能な知識・スキル

- A. 人工知能(AI)の仕組み
- B. プログラミング(Python)
- C. AIを駆使するための数学
- D. AIを駆使した高度な分析と課題解決能力



データサイエンス基礎

地域学ゼミナール

数理・データサイエンスリテラシープログラム

副専攻「データサイエンスコース」

赤枠内の4科目8単位で構成されます。

数理・データサイエンス
応用基礎プログラム

青色文字の3科目で構成されます。

データサイエンス応用 A

データサイエンス応用 B

どちらか一方

データサイエンス実践

教養教育でデータサイエンスや AI を学んだあとは、各自の専攻分野でその知識を活用します。

上図の右側に示した専門科目のうち、無印の科目は「データサイエンス基礎」で学んだ知識を活かせる科目です。一方、虫眼鏡のマークが付いた科目は、「データサイエンス応用 A・応用 B・実践」で学んだ知識を応用できる科目です。

現代では、あらゆる学問分野・社会課題の解決でデータサイエンスや AI の活用が不可欠です。副専攻「データサイエンス」コースでデータサイエンス・AI を学び、それぞれの専門分野にも応用することで、より幅広い知識とスキルを身につけ、社会で活躍しましょう！

注：副専攻の詳細は大学ホームページの教育情報で確認してください。

弘前大学 数理・データサイエンス教育センター

数理・データサイエンス教育センターは弘前大学のデータサイエンス教育を推進するために令和4年4月に設置されました。センターには、医学から社会科学、経済学、工学、生命科学、数理科学など、さまざまな学問分野での課題解決にデータサイエンスを応用している先生方が参加し、最先端のデータサイエンスに基づいた教育プログラムを開発し提供しています。データサイエンスの研究会やセミナーなどを企画・開催していますので、WEBサイトにアクセスしてみてください。



わからないことがあったら数理・データサイエンス教育センターにアクセスしよう！